



日本海中部沿岸域で群発する地震から学ぶもの

今月（2007年7月）16日の午前10時過ぎに発生した「新潟県中越沖地震」は、マグニチュード6.8の大型地震で、新潟県柏崎市・長岡市、長野県飯綱町などで震度6強の揺れがあり、大きな被害が出た。被害にあわれた方々をはじめ、そのご家族や関係の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

ところで、2007年3月25日に発生した「能登半島地震」（M6.9）はごく最近の出来事だし、同じ中越地方を襲った「新潟県中越地震」（M6.8）も3年足らず前の2004年10月の出来事だ。地震といえば、プレート活動によって蓄えられた歪みエネルギーが、一気に放出される際に生じるものであろうから、大型の地震が発生した周辺では、繰り返して大きな地震が発生する確率は低い、と考えたくなる。しかしこの「常識」は、昨今の地震の発生状況からすると、間違っているようだ。

「地震考古学」を提唱し、多くの関連論文を発表しておられる地震学者の寒川旭さんによれば、中越や能登地域で群発する地震の根元には、太平洋側の静岡から四国沖に向けて走る「南海トラフ」で周期的に発生している巨大地震（例：東南海地震など）の前兆であるという（『朝日新聞』2007年7月17日の記事）。そしてそれに向けての動きは、すでに1995年に発生した「阪神・淡路大震災」で始まっており、2000年の「鳥取県西部地震」（M7.0）も含めて既に、活発期に入っていると明言されている。

地震の歴史は、繰り返すことが多い。だから今から約六十余年前の、太平洋戦争終戦後に日本列島を襲った巨大地震（1944年の「昭和・東南海地震」、1946年の「昭和・南海地震」）の場合の教訓を思い起こすべきである。寒川さんによれば、その巨大地震への動きは、1891年の濃尾地震（M8.0）を起点として、以後1925年の「北但馬地震」（M6.8）、1927年の「北丹後地震」（M7.3）、1943年の「鳥取地震」（M7.2）と、日本海側での大地震が前兆として発生しているという。

また、それ以前のサイクルに当たる1854年の「安政・東海地震」の場合にも、その28年前に新潟「三条地震」（M6.9）が発生し、1947年の長野「善光寺地震」（M7.4）、1954年の三重「伊賀上野地震」（M7.3程度）が起きているのだ。

こうしてみれば「南海トラフ」が活発期にはいると、信越地方や日本海側が騒がしくなっていて、やがて太平洋側で「巨大地震」が発生するというパターンが繰り返されている。自然が発するこの警告を、歴史を学ぶものとして、まさに心して受け止めるべきである。

地球規模で生じる自然災害の前に、人間の力はまことに非力である。だからといって必要以上におそれることはないと思うが、地球温暖化やエネルギー・食料問題など、あまりにも「自然」を軽視した人間の尊大な行為に反省を促す「天の啓示」かもしれない。だから我々としても、起こるべき非常の事態に備え、家族や地域、大学や会社など社会のあらゆる単位で、常に有効な対策を講じておきたいものである。

（黒崎 直）

平成 19 年 7 月 24 日

各 位

富山大学人文学部考古学研究室

稲積オオヤチ古墳群調査についてのご案内

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より当大学人文学部考古学研究室の活動にご助力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、平成 13 年度より引き続き氷見市教育委員会のご協力を得て、富山県氷見市にある稲積オオヤチ古墳群の調査を下記のように実施いたします。何かとお忙しいことと存じますが、ご来訪のうえ、ご指導賜わりますようお願い申し上げます。

記

期 間：8 月 1 日(水)～10 日(金)頃

調 査 地：富山県氷見市稲積地内 稲積オオヤチ古墳群

調査概要：稲積オオヤチ A5 号墳～A12 号墳の測量調査

特筆事項：稲積オオヤチ古墳群は、阿尾島田 A1 号墳(推定全長 70m で富山県最大級の前期前方後円墳)に隣接して築かれる。昨年度の調査で、主墳の稲積オオヤチ A1 号墳は全長 46.5m の帆立貝形前方後円墳であることが分かった。本年度は、A1 号墳から派生する尾根筋に連なる古墳群の調査を継続して行う。

連絡先等：富山大学人文学部准教授 高橋 浩二(調査担当者)

(調査前：076-445-6195 調査中：090-2833-8192)

氷見市立博物館 大野 究(0766-74-8233)

※ 調査期間については、雨天等の都合で、変更になる可能性があります。

編集後記

日ごとに暑さが増し、蝉の鳴く声がにぎわしくなってきましたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。今日は夏の測量調査に向けて僕たちの中に眠る技術とカンを呼び起こすため、構内の盛土遺構（プレハブ棟跡地）の測量を実施しました。みんなレベルアップ×2は達成できたかと思います。今日の成果を本番に生かして、実りのある調査にしたいと思っています。夏はもうすぐそこです！！みなさんも一つの目標を立ててこの夏を乗り切ってみてはいかがでしょうか。ちなみに研究室3年Tさんの目標はアイスは1日1本までだそうです…（笑）

（横幕 真）

富大考古通信 第三号

配信日 2007年7月29日

編集・配信 富山大学人文学部考古学研究室

住所 930-8555 富山市五福3190

TEL 076-445-6195

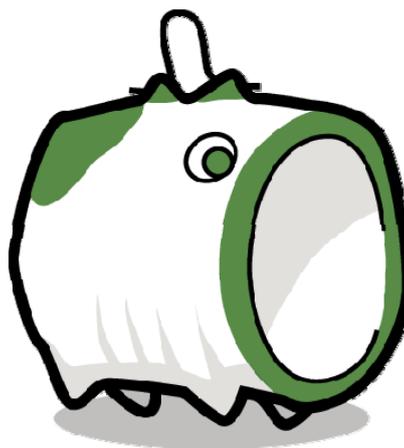
留守番アクセス 4000 BOX番号 6195

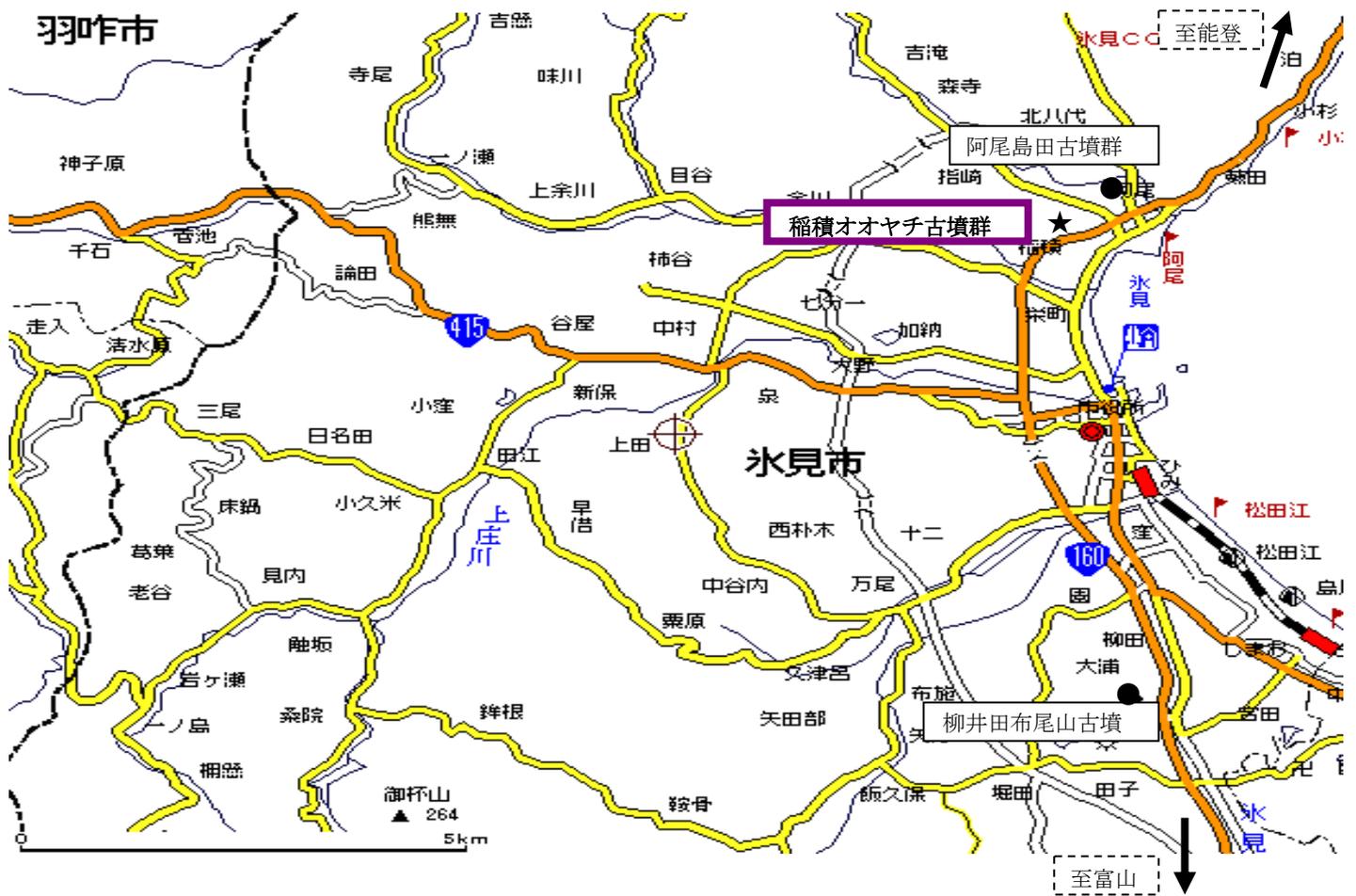
HP <http://www.geocities.jp/tomidaikouko/>

メール tomidaikouko@yahoo.co.jp

※ メールにつきましては、迷惑メールと区別す

るためタイトルに必ず「富山大学考古学研究室」と入力して下さい。ご協力よろしく
お願いいたします。





《調査付近地図》

